

古典的コンピュータ OKITAC5090 について

9号館4階の情報科学センター受付の前にある小型蒸気機関車のごとき巨大な物体が、何でありどのような由来でそこにおいてあるかをご存じであろうか。情報系でない学部の学生の皆さんでもこれが昔のコンピュータであることはすぐにわかる。しかしその由来についてはよく知らない人が多いかもしれない。

これはOKITAC5090という古典的コンピュータであり、専修大学では経営学部が設置される昭和37年4月の前年の11月に導入された本学第1号のコンピュータである。つまり、経営学部は当時最新の電子計算機をもった最先端の学部として設置されたのである。ネットワーク情報学部の前進は、経営学部の情報管理学科（昭和47年度開設）であり、経営学部もOKITACもネットワーク情報学部と深いつながりがある。

このOKITAC5090についてごく簡単に解説しよう。OKITAC5090はラインプリンタ、カードリーダー、磁気テープなどの端末機器との接続に力をいれた、沖電気株式会社が誇る中型高性能機であった。コンピュータはトランジスタの時代に入っていたが、日本のコンピュータ産業は強力なIBM機に押されて苦戦していた。OKITAC5090は、国産機では初のコアメモリを採用しており、IBM機に対応できる数少ない高性能中型コンピュータであった。当時、東京大学、京都大学、横浜市立大学、電気通信大学、神戸大学、九州大学等の主要大学、日本光学、キャノン、オリンパス光学等の企業が導入し、わが国では最も注目されたコンピュータであった。52台程販売されたという。

OKITACにはA,B,C,D型などの種類があるが、本学が導入した機種の仕様は、中央演算装置がコアアドレス方式、記憶容量は4000語、入力光学式テープ読み取り装置（毎秒200字）、出力は電動タイプライタおよびチェン式5093高速度印刷装置（500行/分）であった。その能力は現在のパソコンと比べたら、比較にならない程低いことになってしまうが、それはコンピュータ技術が驚くほど急速に発達したせいである。しかしOKITAC5090がよく保存されていたものだと思う。貴重な産業遺産でもある。沖電気の方が現物を見たら感激するかもしれない。同時にこの最先端のコンピュータを導入した本学の先進性を評価しないわけにはいかない。ネットワーク情報学部の前身である情報管理学科はこのような努力もあり高い社会的評価を受け、またすぐれた学生を輩出してきた。

ところで、平成18年3月にネットワーク情報学部の森克美教授が退職されるが、森先生はこのコンピュータの立ち上げに深く関わっている。我が国の文系私立大学において最も早く情報処理教育を展開した専修大学において、経営学部開学とほぼ同時に導入したOKITAC5090を本格稼働させ、黎明期の本学の情報処理教育の立ち上げに多大な貢献をした。森教授は本学勤務以前の沖電気勤務時代より本学の電子計算機関連の業務を担当していた。森教授は、後に情報管理学科設立の有力メンバーとして大きな貢献をした。情報管理学科は我が国で最も早く開設された文系私立大学系の情報関連学科のひとつである。さらにいうまでもないが、森先生は、経営学部やネットワーク情報学部において経営経済分野や情報分野の基礎となる数学教育の展開にも大きく寄与をした。少し失礼ないい方かもしれないが、森先生が大学を去られることはひとつの時代がすぎていくような気がする。森先生の今後のご活躍を祈念したい。

ネットワーク情報学部 学部長 齋藤 雄志

[参考文献]

- [1]森・坂本・佐藤・中村・能見・伊藤：座談会「本学の情報処理教育の変遷……黎明期から成熟期まで」、センターインフォメーション(2002.2)、専修大学情報科学センター。
- [2]沖電気(株)PC/WSインフォメーションセンタ資料,2002.